

では、願い事はキリストではなくマリアが引き受けている。

と指摘しているカトリック文化圏の中でのマリアの役割が明瞭に現れているようである。

②ルルド

フランス南部のルルドは「傷病者巡礼」地として非常に有名な土地である。1858年にマリアの出現があって聖地として認められ、多くの人々が巡礼地として訪問するようになったのであった。ルルドの様子は『奇跡の聖地ルルド』（文：田中澄江、写真：菅井日人）等優れた写真集も刊行されているので、それらに依っていただきたい。

なお、オローパのサクロモンテ調査については、矢澤知行「北イタリアのサクロモンテ（聖山）巡礼」、ルルドの調査については、内田九州男「モン・サン・ミシェルとルルドの調査」（『四国遍路を中心とした日本・世界の巡礼の総合的研究 平成21年度報告書』）を参照願いたい。

③四国遍路での諸願成就

(i) 平等寺の箱車と奇跡 写真(図6)は筆者が2010年の2月札所調査で平等寺を訪れた際に撮影したもので、本堂に安置してある3台の箱車である。



図6 平等寺本堂の箱車

この箱車のことは西端さかえ『四国八十八札所遍路記』（大法輪閣、昭和39年）に次のように記してある。

本堂にはここで足の立った人のいざり車が3つ奉納されていた。いずれも有蓋で形が大きい。松葉杖も数本あった。

また同書は

患者への心づかい 住職谷口津梁師は80歳というがなかなかお元気、実際に見た靈験を記録した印刷物を見せて下さった。大正年間から昭和4年にかけてのもので、いざりの治ったひとが5人、リュウマチス、眼病、精神病、肺病等でおかげをいただき平癒した人たちのことも委しく記されていた。昭和11年にも、現在高松市塩屋町に住むT氏妻Tさんが、長年の胃腸病に苦しみ、夫と娘につれられて遍路してきたときに、加持水をしらずにのみ、不思議と平癒して健康体となり、いよいよ信仰深くなっているお話などあった。

と、遍路によって病（足の障害、リュウマチス、眼病、精神病、肺病等）が治癒した例が紹介されている（註②）。

(ii) 弥谷寺での奇跡。同じく『四国八十八札所遍路記』の弥谷寺の項には次のような話が載せられている。

広島県尾道市久保町のSK氏は小児マヒで足がたたなかったが、当寺の本尊さまや大師さまに祈願して全快した。すると姉のSS子さんがまた小児マヒで、足がたたなくなった。一心祈願をして全快し、昭和30年3月松葉杖を奉納し、毎年お礼まいりにくる。また香川県琴平町のKK氏は脊椎カリエスで病臥していたが、大師を信心して靈験を頂き、昭和33年春、お礼まいりにきてギプスを奉納していった。

ここの記載は小児マヒや脊椎カリエス治癒の例である。

(iii) 「四国遍路の功德一救われた人びと」。「四国八十八ヶ所霊場会」発行の『先達教典』（平成18年刊）には、「四国遍路の功德一救われた人びと」の項が設けられ、病氣平癒を含む8例が掲載されている。この中では、愛媛県今治市沖の大島の島四国（全長63km）を歩き、難病治癒の機縁をつかんだ池田勇人（1899～1965、元内閣総理大臣）氏の例は注目される。

以上(i)～(iii)のような諸願成就とくに病氣治癒の例は、すでに引用したように西端氏の『四国八十八札所遍路記』に多く紹介され、その証拠として箱車、松葉杖、ギプスの奉納等があったことも記されている。筆者は、遍路に出る人々の多くは心に秘めた思いの実現ある